

正誤表 中期目標の達成状況報告書

京都大学

	頁数・行数等	誤	正
1	16 頁・46 行	(事務補佐員) <u>名</u> を配置し、	(事務補佐員) <u>1名</u> を配置し、
2	17 頁・39 行	京都ジョブパーク (京都市)	京都ジョブパーク (京都 <u>府</u>)
3	24 頁・43 行	旧 <u>京都学生支援会館</u> を購入し、	旧 <u>京都国際交流会館</u> を購入し、
4	36 頁・30 行	高等 <u>教育</u> 院	高等 <u>研</u> 究院
5	42 頁・40 行	－ 1、2－2－2－2) 5. 本学の学術情報リポジトリは、平成 22 年度以降平成 27 年度末までリポジトリ・ランキングで国内 1 位となっている。(計画 2－2－3－1)	－ 1、2－2－2－2) 5. 本学の学術情報リポジトリは、平成 22 年度以降平成 27 年度末までリポジトリ・ランキングで国内 1 位となっている。(計画 2－2－3－1) ※「2－2－2－2)」の後ろで改行
6	47 頁・16 行	(<u>化学</u> や文明の発展、…	(<u>科学</u> や文明の発展、…
7	51 頁・14 行	看護師 <u>9 名</u>	看護師 <u>8 名</u>
8	54 頁・18 行	看護師 <u>9 名</u>	看護師 <u>8 名</u>
9	56 頁・39 行	<u>穀</u> 内	<u>国</u> 内

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学文学部

	頁数・行数等	誤	正
1	1-2 頁・7 行	教育 <u>において</u> は、	教育 <u>では</u> 、
2	1-2 頁・15 行	毎年の入学者 <u>は</u>	毎年の入学者 <u>には</u>
3	1-3 頁・27 行	TA に <u>対して</u>	TA に <u>対する</u>
4	1-4 頁・2 行	なお平成	なお <u>、</u> 平成
5	1-8 頁・1 行	作成・配付しホームページに	作成・配付し <u>、</u> ホームページに
6	1-8 頁 資料 10 27 年度・就職の行	員、教育学習 <u>支援業</u>	員、教育学習 <u>支援業</u>
7	1-10 頁・21 行	教員全員で <u>共有</u> 、	教員全員で <u>共有するとともに</u> 、

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学文学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	2-2 頁・6 行	教育 <u>において</u> は、	教育 <u>では</u> 、
2	2-3 頁・26 行	単位互換を <u>開始</u> 、	単位互換を <u>開始し</u> 、
3	2-5 頁・5 行	<u>きめ細やか</u> 指導	<u>きめ細やかな</u> 指導
4	2-9 頁・10 行	多いと <u>言える</u> 。	多いと <u>いえる</u> 。
5	2-10 頁・資料 15 注記	<u>PRD</u> を含む	<u>RPD</u> を含む
6	2-12 頁・23 行	教員全員で <u>共有</u> 、	教員全員で <u>共有するとともに</u> 、

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学法学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	6-11 頁・ 資料 1－2－1 ・21 行、23 行	第二 博士後期課程〔教育目標〕 博士後期課程は、法学政治学の分野について、みずからの研究計画に基づいて博士論文を完成させるとともに、原理的問題と現代社会への関心を兼ね備えた国際的発信力ある人材となるための高度の研究能力を涵養することを主な目的とする。〔教育課程編成・実施の方針〕 1. 本学の多様かつ高度な学術的研究を背景とした基盤的、先端的な専門知識を修得させ、国際的に活躍できる自立した研究者を養成するとともに、各専門分野において職業的に必要とされる高度に専門的な知識と技術、並びにそれらを統合する能力を備えた、指導的な高度専門職業人を養成するよう、教育課程を編成し実施する。	第二 博士後期課程〔教育目標〕 博士後期課程は、法学政治学の分野について、みずからの研究計画に基づいて博士論文を完成させるとともに、原理的問題と現代社会への関心を兼ね備えた国際的発信力ある人材となるための高度の研究能力を涵養することを主な目的とする。 〔教育課程編成・実施の方針〕 1. 本学の多様かつ高度な学術的研究を背景とした基盤的、先端的な専門知識を修得させ、国際的に活躍できる自立した研究者を養成するとともに、各専門分野において職業的に必要とされる高度に専門的な知識と技術、並びにそれらを統合する能力を備えた、指導的な高度専門職業人を養成するよう、教育課程を編成し実施する。 ※①21 行：「博士後期課程」及び「〔教育目標〕」の後ろで改行。②23 行：「とする。」及び「〔教育課程編成・実施の方針〕」の後ろで改行

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学薬学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	14-5 頁・18 行	検証に <u>務</u> めている。	検証に <u>努</u> めている。

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	22-2 頁・29 行	グローバルな <u>分</u> 脈	グローバルな <u>文</u> 脈
2	22-4 頁・14 行	応える <u>ため</u> には	応える <u>ため</u> に
3	22-5 頁・30 行	<u>第二</u> にと文理融合	<u>第二</u> に文理融合
4	22-7 頁・11 行	<u>就職していることは、</u>	<u>就職して、</u>
5	22-7 頁・14 行	<u>配置して</u> すること	<u>配置する</u> こと

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学情報学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	23-4 頁・31 行目	各専攻は <u>志願者対象</u> への	各専攻は <u>志願者</u> への

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学生命科学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	24-4 頁・15 行	研究能力と__高度な	研究能力と高度な
2	24-6 頁・3 行	<u>述べ</u> 59 件	<u>延べ</u> 57 件

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学総合生存学館

	頁数・行数等	誤	正
1	25-3 頁・22 行	<u>任用</u> し、	<u>採用</u> し、
2	25-3 頁・23 行	<u>称号付与</u> し、	<u>称号付与</u> し、
3	25-6 頁・13 行	平成 <u>26</u> 年度	平成 <u>25</u> 年度
4	25-6 頁・15 行	(2015. 7. <u>14</u>)	(2015. 7. <u>12</u>)

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学地球環境学舎

	頁数・行数等	誤	正
1	26-4 頁・15 行	大学 <u>創生</u> 支援事業	大学 <u>創成</u> 支援事業
2	26-7 頁・8 行	<u>卒業・終了後</u>	<u>修了後</u>
3	26-8 頁・5 行	得られて <u>いる</u> おり	得られて <u>お</u> り
4	26-9 頁・6 行	第 1 期中期 <u>計</u> 画中	第 1 期中期 <u>目</u> 標期間中
5	26-9 頁・10 行	<u>続</u> 的な見直し	<u>持</u> 続的な見直し
6	26-9 頁・16 行	第 2 期中期 <u>計</u> 画中	第 2 期中期 <u>目</u> 標期間中
7	26-9 頁・表 3 最下段	スーパーグローバル大学 <u>創生</u> 支援事業（ <u>環境学分野</u> ）	スーパーグローバル大学 <u>創成</u> 支援事業（ <u>環境学分野</u> ）

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学公共政策教育部

	頁数・行数等	誤	正
1	27-3 頁・16 行	<u>享受</u> するため	<u>教授</u> するため

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（教育）

京都大学経営管理教育部

	頁数・行数等	誤	正														
1	28-2 頁・11 行	高度専門職業人を <u>要請する</u> とし	高度専門職業人を <u>養成する</u> とし														
2	28-3 頁・10 行	博士後期課程 <u>へ</u> の新設、	博士後期課程 <u>の</u> 新設、														
3	28-3 頁・最下行	社会人 <u>へ</u> の通いやすい環境 <u>へ</u> の整備、	社会人 <u>の</u> 通いやすい環境 <u>の</u> 整備、														
4	28-4 頁・資料-4 パーセントの列	<table><tr><td>パーセント</td></tr><tr><td>54.<u>17</u>%</td></tr><tr><td>12.<u>50</u>%</td></tr><tr><td>16.<u>67</u>%</td></tr><tr><td>4.<u>17</u>%</td></tr><tr><td>12.<u>50</u>%</td></tr><tr><td></td></tr></table>	パーセント	54. <u>17</u> %	12. <u>50</u> %	16. <u>67</u> %	4. <u>17</u> %	12. <u>50</u> %		<table><tr><td>パーセント</td></tr><tr><td>54%</td></tr><tr><td>12%</td></tr><tr><td>16%</td></tr><tr><td>4%</td></tr><tr><td>12%</td></tr><tr><td></td></tr></table>	パーセント	54%	12%	16%	4%	12%	
パーセント																	
54. <u>17</u> %																	
12. <u>50</u> %																	
16. <u>67</u> %																	
4. <u>17</u> %																	
12. <u>50</u> %																	
パーセント																	
54%																	
12%																	
16%																	
4%																	
12%																	
5	28-11 頁・6 行	単位取得 <u>を</u> 可能、	単位取得 <u>が</u> 可能、														
6	28-14 頁・17 行	またこのアンケートにおいて、	また、 <u>こ</u> のアンケートにおいて														

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学文学部・文学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	1-2 頁・9 行	この目的を達成するため本研究科は次のような特徴をもつ研究を <u>おこなって</u> いる。	この目的を達成するため、本研究科は次のような特徴をもつ研究を <u>行っ</u> ている。
2	1-2 頁・17 行	日本学・アジア学の <u>世界的拠点の形成</u>	日本学・アジア学の <u>世界的拠点形成</u>
3	1-5 頁・3 行	<u>GCO プログラム</u>	<u>GCOE プログラム</u>
4	1-5 頁・7、8 行	現在まで前者は 11 巻、後者は <u>9</u> 巻を刊行	現在まで前者は 11 巻、後者は <u>8</u> 巻を刊行
5	1-5 頁・24 行	<u>おこなっている</u>	<u>行っている</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学情報学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	13-3 頁・最下行	<u>知的財産研</u> の出願	<u>知的財産権</u> の出願
2	13-6 頁・2 行	世界各地 <u>野</u> 大学	世界各地 <u>の</u> 大学
3	13-6 頁・5 行	企業との <u>協同研究</u>	企業との <u>共同研究</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学生命科学研究科

	頁数・行数等	誤	正
1	14-3 頁・21 行	<u>モノ</u>	<u>もの</u>
2	14-3 頁・41 行	姉妹誌 <u>など、</u>	姉妹誌 <u>などの</u>
3	14-3 頁・42 行	一流誌 <u>に、</u>	一流誌 <u>を含め、</u>
4	14-4 頁・41 行	and <u>view</u> 、	and <u>views</u> 、
5	14-5 頁・10 行	news and <u>view</u> 、	news and <u>views</u> 、

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学地球環境学堂

	頁数・行数等	誤	正
1	16-3 頁・27 行	研究教育は	研究教育が
2	16-3 頁・28 行	実施) __に	実施) に
3	16-3 頁・31 行	多岐に <u>わる</u>	多岐に <u>わたる</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学公共政策連携研究部

	頁数・行数等	誤	正
1	17-2 頁・26 行	経済学研__究科	経済学研究科

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学経営管理研究部

	頁数・行数等	誤	正
1	18-3 頁・ 表-2・1 行	…システムセンター、(株) N T T データ…	…システムセンター、 (株) N T T データ… ※「センター、」の後ろで改行
2	18-4 頁 図-1 タイトル	<u>(図-1)</u> 外部資金の獲得状況	<u>図-1</u> 外部資金の獲得状況
3	18-5 頁・14 行	学界 <u>からの</u> 期待され	学界 <u>から</u> 期待され
4	18-7 頁・13 行	幅広く <u>高度な</u> もので、	幅広く <u>高度</u> で、

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学エネルギー理工学研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	22-3 頁・ 5～6 行	附属エネルギー複合機構研究センター <u>活動を通じた</u>	附属エネルギー複合機構研究センター <u>等での活動により</u>
2	22-3 頁・24 行	とも総額 1.1 億～1.6 億円を <u>安定して</u>	とも <u>安定して</u> 総額 1.1 億～1.6 億円を
3	22-3 頁・27 行	1.6 億～1.9 億円受け入れ中期目標	1.6 億～1.9 億円受け入れ、 <u>中期目標</u>
4	22-5 頁・38 行	<u>160</u> 編	<u>190</u> 編
5	22-6 頁・28 行	成果を <u>上げた</u> 。	成果を <u>あげた</u> 。
6	22-6 頁・33 行	共同研究 <u>申込</u>	共同研究 <u>申し込み</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学防災研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	24-9 頁・3 行	P24-5 表 <u>10</u>	P24-5 表 <u>7</u>
2	24-9 頁・4 行	P24-5 表 <u>11</u>	P24-5 表 <u>8</u>

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学基礎物理学研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	25-3 頁・15 行	<u>13</u> 件締結し	<u>14</u> 件締結し
2	25-3 頁・26 行	受賞者数 11	受賞者数 <u>は</u> 11
3	25-6 頁・8 行	重力波 <u>宇宙</u> 物理学研究センター	重力波物理学研究センター
4	25-6 頁・9 行	重力波 <u>宇宙</u> 物理学研究センター	重力波物理学研究センター
5	25-6 頁・24 行	重力波 <u>宇宙</u> 物理学研究センター	重力波物理学研究センター

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学原子炉実験所

	頁数・行数等	誤	正
1	29-5 頁・32 行	進展はかる	進展 <u>を</u> はかる

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学東南アジア研究所

	頁数・行数等	誤	正
1	31-3 頁・6 行	平成 <u>22 年-27 年度</u> に刊行した	平成 <u>22-27 年度</u> に刊行した
2	31-3 頁・13 行	国内学会 <u>350</u>	国内学会 <u>350 題</u>
3	31-3 頁・40 行	本研究所の教員スタッフは <u>28 年</u> 1 月	本研究所の教員スタッフは <u>28 年</u> 1 月
4	31-4 頁・26 行	・図書、 <u>製本雑誌、計66000 点</u>)	・図書 <u>及び</u> 製本雑誌 <u>(計66,000 点)</u>
5	31-4 頁・27 行	・マイクロフィルム・マイクロフィッシャー利用件数： <u>1032 件</u>	・マイクロフィルム・マイクロフィッシャー利用件数： <u>1,032 件</u>
6	31-6 頁・18 行	上記、 <u>分析項目 I</u> の研究活動の	上記、 <u>分析項目 I</u> の研究活動の

正誤表 学部・研究科等の現況調査表（研究）

京都大学地域研究統合情報センター

	頁数・行数等	誤	正
2	36-7 頁・23 行以下	災害対応の地域研究: 京都大学学術出版会から叢書「災害対応の地域研究」シリーズの刊行を継続している。また 2011 年 12 月のインドネシア・アチェ州における国際ワークショップの開催以来、毎年開催している京都＝アチェ「災害と社会」国際ワークショップ/や、スマホアプリによるスマトラ大津波の記憶を継承する取り組みについて高く評価されている（「天声人語」『朝日新聞』朝刊、2014 年 12 月 27 日付、同紙 2013 年 9 月 26 日付、『日本経済新聞』2014 年 1 月 7 日付、『Serambi Indonesia』2011 年 11 月 27 日付など）。 1) 相関型地域研究: とくに 2013 年ペルーで刊行の <i>América Latina en la era Posneoliberal</i>、2014 年イギリスで刊行の <i>Climate Change and Deforestation</i> で特集号が組まれた。 2) 地域情報学: 論文数を着実に増やしており、2015 年度情報処理学会人文科学コンピュータシンポジウムでポスター賞を受賞する論文も発表されている（別添資料「11 地域情報学関連論文等」）。 3) 地域研究に関わる情報支援システム: 地域情報学の展開のために開発した My データベース等を研究者コミュニティに還元している。	1) 災害対応の地域研究: 京都大学学術出版会から叢書「災害対応の地域研究」シリーズの刊行を継続している。また 2011 年 12 月のインドネシア・アチェ州における国際ワークショップの開催以来、毎年開催している京都＝アチェ「災害と社会」国際ワークショップ/や、スマホアプリによるスマトラ大津波の記憶を継承する取り組みについて高く評価されている（「天声人語」『朝日新聞』朝刊、2014 年 12 月 27 日付、同紙 2013 年 9 月 26 日付、『日本経済新聞』2014 年 1 月 7 日付、『Serambi Indonesia』2011 年 11 月 27 日付など）。 2) 相関型地域研究: とくに 2013 年ペルーで刊行の <i>América Latina en la era Posneoliberal</i>、2014 年イギリスで刊行の <i>Climate Change and Deforestation</i> で特集号が組まれた。 3) 地域情報学: 論文数を着実に増やしており、2015 年度情報処理学会人文科学コンピュータシンポジウムでポスター賞を受賞する論文も発表されている（別添資料「11 地域情報学関連論文等」）。 4) 地域研究に関わる情報支援システム: 地域情報学の展開のために開発した My データベース等を研究者コミュニティに還元している。